

高崎市文化財調査報告書第363集

## 新後閑遺跡 3

---

— 宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2016

高崎市教育委員会  
株式会社イーホーム  
有限会社毛野考古学研究所



調査区全景 (南から)



調査区全景 (左上が北)



調査区中央から東側全景  
(北西から、手前に3号住居跡と1号竪立柱建物)



4号住居跡カマド周辺遺物出土状況  
(南西から、袖石手前に扁平礎を入れた土師器坏を伏せる)



2号住居跡出土金環

6



1

35号ピット出土白玉



11

4号住居跡カマド袖石

## 例 言

1. 本書は、株式会社イーホームによる宅地造成工事に伴う新後閑遺跡3（市遺跡番号647）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 「新後閑遺跡3」は、群馬県高崎市新後閑町12番6、12番13、12番14に所在する。
3. 発掘及び整理調査の期間・発掘調査の面積は次のとおりである。  
【発掘調査期間】平成27年8月3日～平成27年8月31日  
【整理調査期間】平成27年9月1日～平成28年3月31日  
【発掘調査面積】90.78㎡
4. 発掘及び整理調査は、株式会社イーホーム・高崎市教育委員会・有限会社毛野考古学研究所による三者協定を締結し、高崎市教育委員会の指導のもと、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
5. 発掘及び整理調査に関わる経費は清水智夫氏及び株式会社イーホームの負担による。
6. 発掘及び整理調査は、常深尚（有限会社毛野考古学研究所）が担当し、遺物実測は石器を土井道昭（有限会社毛野考古学研究所）が分担した。
7. 本書の編集・執筆については、矢高浩（高崎市教育委員会文化財保護課）・常深が協議して行い、第1章を矢高、その他を常深が執筆した。
8. 遺構及び遺物の写真は常深が撮影し、空中写真はJT空撮が撮影した。
9. 調査資料は、一括して高崎市教育委員会で保管している。
10. 発掘及び整理調査の参加者は、以下のとおりである。  
（発掘調査）井口ヒロ子 岡庭秋男 岡村美弥子 北野進二 小出拓磨 小関泰洋 佐藤四雄  
設楽和也 鈴木正 森山恵子 森山孝男  
（整理作業）大塚規子 小野澤朝子 合田幸子 竹中美保子 半澤利江 伴まりく 山下美樹 渡辺博子
11. 発掘調査の実施から報告書の刊行に至る過程で下記の諸氏・機関にご協力賜った。記して感謝申し上げます（敬称略、順不同）。  
前原豊 カネコハウス㈱ JT空撮 ㈱スマイア測量 ㈱明総

## 凡 例

1. 挿入中に使用した方位は、国家座標（JIS）の北を表す。座標軸は世界測地系である。
2. 本書ではテフラの呼称として次の記号を用いた。  
As-A：1783（天明3）年噴出の浅間Aテフラ、As-B：1108（天仁元）年噴出の浅間Bテフラ  
As-C：3世紀終末から4世紀初頭噴出の浅間Cテフラ
3. 遺構の表記は以下の記号を用いた。  
SB：掘立柱建物 SD：溝 SI：竪穴住居跡 SK：土坑 SP：ピット
4. 遺構及び遺物実測図の縮尺は次のとおりである。  
【遺構】全体図…1/200 竪穴住居跡・掘立柱建物・土坑・溝…1/60 カマド…1/40  
【遺物】土器…1/3 石器・石製品・土製品・金属製品…1/2、1/3、1/5
5. 遺物番号は、実測図・観察表・写真図版ともに共通である。
6. 本文・土層断面図・土層注記中のローマ数字は基本土層、算用数字は遺構内堆積土の層番号を表す。
7. 土層及び遺物の色調は「新版標準土色帖」（小山正忠・竹原秀雄著 ㈱日本色彩研究所）を使用した。
8. 遺構図中の塗り表現は以下の通りである。 □ 焼土 ■ 炭化物

# 目次

巻頭図版・例言・凡例・目次		第5章 遺構と遺物	7
第1章 調査に至る経緯	1	第1節 調査の概要	7
第2章 遺跡の立地と歴史的環境	2	第2節 竪穴住居跡	8
第1節 地理的環境	2	第3節 掘立柱建物	16
第2節 歴史的環境	2	第4節 土坑・ピット	16
第3章 調査の方法と経過	5	第5節 溝	21
第1節 調査の方法	5	第6節 包含層出土遺物	22
第2節 調査の経過	5	第6章 調査成果	25
第4章 標準堆積土層	6	抄録・写真図版・奥付	

## 挿図目次

第1図 調査区域図	1	第10図 3号住居跡平面図・断面図・出土遺物	13
第2図 新後周遺跡位置図	2	第11図 4号住居跡平面図・断面図	14
第3図 新後周遺跡周辺の遺跡分布	3	第12図 4号住居跡出土遺物	15
第4図 グリッド設定図及び標準堆積土層	6	第13図 1号掘立柱建物平面図・断面図	17
第5図 新後周遺跡3全体図	7	第14図 土坑平面図・断面図	18
第6図 1号住居跡平面図・断面図	8	第15図 土坑・ピット出土遺物	19
第7図 1号住居跡出土遺物	9	第16図 1・2号溝平面図・断面図	21
第8図 2号住居跡平面図・断面図	11	第17図 包含層出土遺物①	22
第9図 2号住居跡出土遺物	12	第18図 包含層出土遺物②	23

## 表目次

第1表 周辺の遺跡一覧表	4	第7表 ビット一覧表②	18
第2表 1号住居跡出土遺物観察表	10	第8表 土坑・ピット出土遺物観察表①	19
第3表 2号住居跡出土遺物観察表	12	第9表 土坑・ピット出土遺物観察表②	20
第4表 3号住居跡出土遺物観察表	13	第10表 2号溝出土遺物観察表	21
第5表 4号住居跡出土遺物観察表	16	第11表 包含層出土遺物一覧表①	23
第6表 ビット一覧表①	17	第12表 包含層出土遺物一覧表②	24

## 写真図版目次

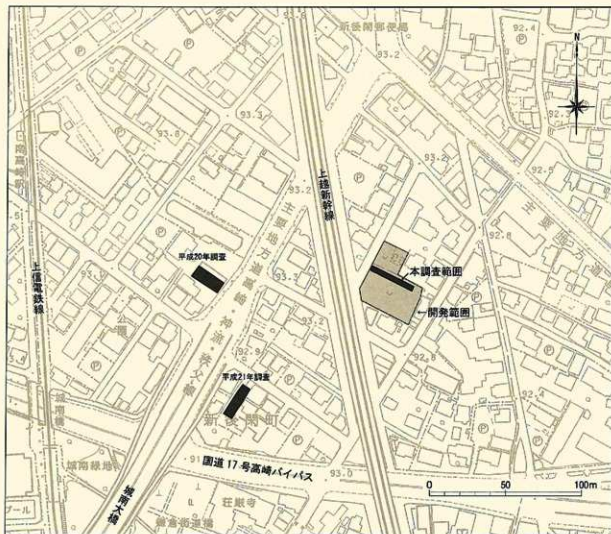
P.L. 1 調査区全景(空撮、北から) 調査区東側全景(北西から)	P.L. 3 3号住居跡カマド全景(北東から) 3号住居跡掘り方全景(南東から) 4号住居跡全景(南西から) 4号住居跡カマド全景(南西から) 1号掘立柱建物全景(南東から) 1～3号土坑全景(南西から) 1号溝全景(北東から) 1号ピット遺物出土状況(南から)	P.L. 4 1号住居跡出土遺物 P.L. 5 4号住居跡出土遺物 P.L. 6 2号住居跡出土遺物 土坑・ピット出土遺物① P.L. 7 土坑・ピット出土遺物② 石器・石製品 P.L. 8 包含層出土遺物
--	---	--



## 第1章 調査に至る経緯

平成27年4月、事業者および施工責任者である株式会社イーホームから、高崎市新後開町において計画している宅地造成工事に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である竜見町31遺跡内に所在するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年4月27日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書と文化財保護法に基づく届出が提出され、同年5月26日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、古墳時代の遺構・遺物を確認した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることと合意した。なお遺跡名については「新後開遺跡3」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間組織導入事務取扱要項」に順じ、平成27年7月21日に株式会社イーホームと民間調査機関有限会社毛野考古学研究所との間で契約を締結、また同年7月27日に株式会社イーホーム・有限会社毛野考古学研究所・市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。



第1図 調査区域図（高崎市発行『高崎市都市計画基本図』1/2500）

## 第2章 遺跡の立地と歴史的環境

### 第1節 地理的環境

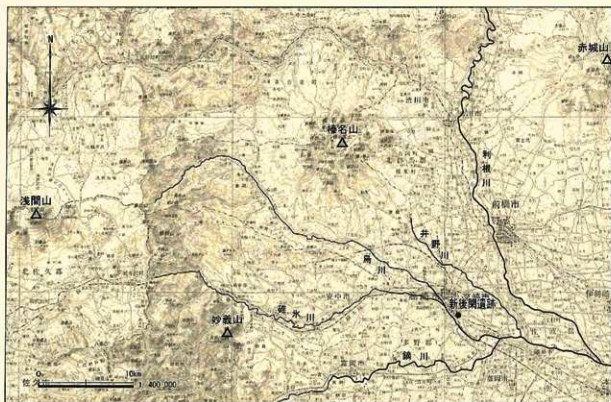
新後閑遺跡は関東平野北西端部の高崎台地上に立地し、標高は92.5mである。高崎台地は、約22万年前の浅間山噴火に伴う前橋泥流堆積物を基盤とする前橋台地の西方、井野川低地帯と烏川に挟まれた地域を指し、前橋泥流堆積物の上位には約1万年前に堆積した高崎泥流が堆積している。新後閑遺跡は南東流する烏川の左岸、高崎台地の西側縁辺部に位置している。烏川は、浅間隠山などを水源とし、碓氷川・鏡川・井野川と合流しながら利根川へと流れる。

### 第2節 歴史的環境

本遺跡(1)周辺の烏川左岸では、約1万年前の高崎泥流の堆積により旧石器時代の発見例はなく、縄文時代の資料も断片的である。上中居遺跡群(62)で縄文時代中期後半の集石や前期～後期の土器、土偶・石棒が出土している。倉賀野万福寺遺跡(19-20)や中居町一丁目遺跡3(61)で竪穴住居跡が検出されている。

弥生時代は中期後半になって竜見町遺跡(2)・城南小学校校庭遺跡(3)・高崎競馬場遺跡(81)で土器が出土し、高岡村前II遺跡(71)で住居、高岡塚村遺跡(75)で環濠の溝が確認された。東町皿遺跡(85)ではAs-C下の水田跡を検出している。

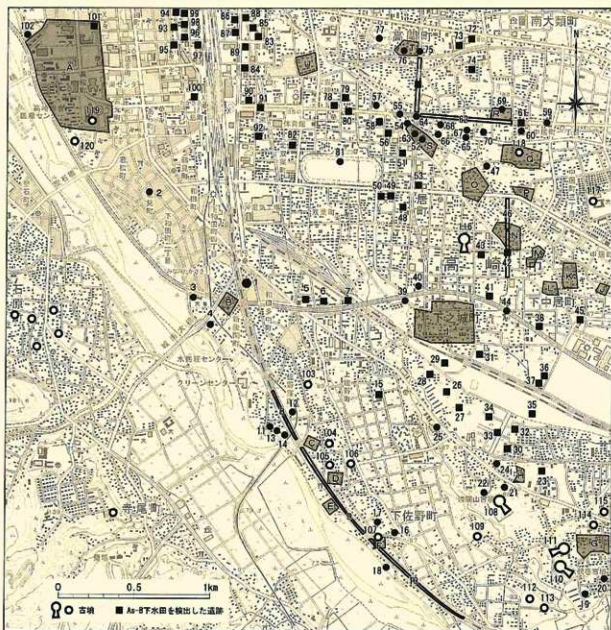
古墳時代には、4世紀末頃から本遺跡より下流の烏川左岸に倉賀野古墳群と佐野古墳群が形成される。倉賀野



第2図 新後閑遺跡位置図 (国土地理院発行『宇都宮』・[長野] 1/200,000を50%縮小)

古墳群では、浅間山古墳(108)・大鶴巻古墳(110)に続き、5世紀後半の小鶴巻古墳(111)が築造される。佐野古墳群では長者屋敷天王山古墳(107)に始まり、6世紀後半～7世紀初頭の蔵王塚古墳(106)・漆山古墳(105)まで継続する。本遺跡と時間的に近い7世紀中葉～末には、倉賀野古墳群東方に一本杉古墳(114)・安楽寺古墳(115)が築造される。烏川左岸の集落は、舟橋遺跡(8)・下佐野遺跡(9・10)・上佐野舟橋遺跡(12～14)・倉賀野万福寺遺跡(19・20)があり、方形周溝墓などもみられる。7世紀の上中居岡西2遺跡(70)や上中居宇名室遺跡(47)では、首代と異なって東西南北を指向した大溝が掘削され、土地利用の変化が指摘されている。

平安時代にはAs-B下の水田が多く遺跡で確認されている。下之城条里遺跡(44)では、1町間隔の水路を伴う大畦畔を構築し、条里制地割に基づいた水田経営を行っていたことが明らかにされた。条里制地割は下之城村前遺跡(30～35)・下之城仲沖遺跡(26～29)でも確認され、さらに下層の水田からも同一の溝が検出され、B水田以前からの条里制地割の存在が示された。奈良平安時代の集落は新後関寺廻遺跡(4)・高峰城(A)などがある。



第3図 新後関遺跡周辺の遺跡分布(国土地理院発行「下室田」・「前橋」・「高峰」・「富岡」1/25,000)





## 第3章 調査の方法と経過

### 第1節 調査の方法

表土掘削は重機を使用し、As-B 混土をあわせて掘削しながら、遺物包含層（IV層）上面まで掘削した。調査区南西壁沿いには遺構検出面までの深さを確認するトレンチを3カ所設定した（1～3号トレンチ）。遺物包含層上面では遺構は検出されず、遺物包含層を人力で掘削した。包含層中の遺物は、2mのグリッドごとに取り上げを行い、一部の遺物は出土位置を記録した。グリッドの名称は第4図のとおりである。グリッド境は土層観察用ベルトを残し、遺構の新旧などを観察した。遺構検出は包含層下のV層で行い、竪穴住居跡・土坑・ピット・溝を多数確認した。

遺構の測量は、断面図を手実測（縮尺1/20）、平面図を電子平板で行った。平面図中の等高線は10cm間隔とした。遺構の写真撮影は、35mmモノクロ・カラーリバーサルフィルムカメラとデジタルカメラを併用した。遺跡全景の空中写真は、6×6モノクロ・カラーリバーサルフィルムとデジタルカメラ（JPEG、RAW）を使用して撮影した。

遺物注記は注記スタンプを使用して行い、「647 S101 No.1」のように注記した。遺物の写真撮影はデジタルカメラ（Nikon D7000）を使用した（JPEG、RAW）。遺構図・遺物実測図・報告書作成とともに Adobe®Creative Suite® でデジタルトレース・編集等を実施し、印刷所には PDF 型式（X-la;2001）で入稿した。

### 第2節 調査の経過

- 【8月】 3日：調査区西側から表土の重機掘削を行う。ボックスハウス・仮設トイレ・器材等を搬入。 4日：調査区東側にて表土の重機掘削を行う。 5日：調査区壁面及び遺物包含層上面の精査後に、遺物包含層の掘削を開始する。基準点測量を行う。 10日：遺物包含層掘削を終える。遺構検出作業を行い、竪穴住居跡・土坑・ピット・溝を検出する。中央部から遺構調査を開始する。 12日：東部の遺構調査を開始する。 18日：2号住居跡から金環が出土する。 21日：竪穴住居跡のカマド調査を開始する。 24日：西部の遺構調査を開始する。 27日：1号掘立柱建物を検出する。 28日：遺構掘削を終え、調査区全景の空中写真撮影を行う。竪穴住居跡の掘り方調査を行う。 31日：遺構測量を終え、調査器材を撤収する。
- 【9月】 1日：ボックスハウス・仮設トイレを撤去する。調査概報の作成。
- 【10月】 出土遺物の洗浄・注記・接合、遺構図・写真の整理を行う。
- 【11月】 報告書掲載遺物の写真撮影・実測、遺構全体図の羅纂、遺構写真図版作成を行う。
- 【12月】 報告書掲載遺物の実測・トレース、遺構図版作成、報告書原稿執筆を行う。
- 【1月】 遺物図版作成、報告書編集を行う。
- 【2月】 報告書データを入稿し、校正を行う。
- 【3月】 報告書の印刷製本を行う。成果品の準備を行い、報告書とともに納品する。

## 第4章 標準堆積土層

1～3号トレンチの壁面においてI層～VI層の標準堆積土層を確認した。概ね西から東に向かって緩やかに下る傾斜があり、中央部はやや小高くなっている。

I層は現代の耕作土である。灰褐色土 (7.5YR4/1)。

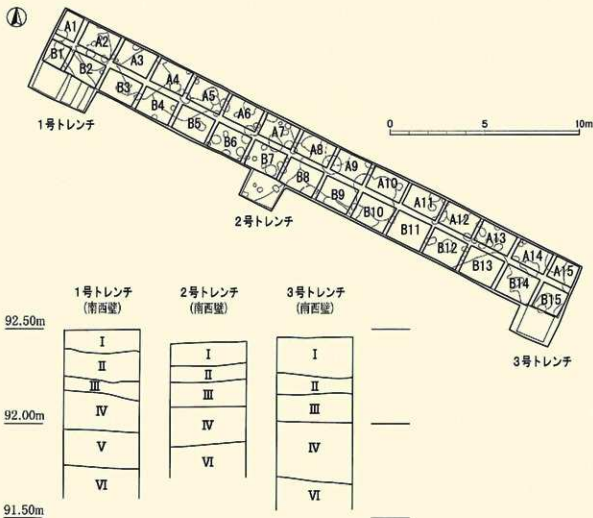
II層は褐灰色土 (10YR4/1) である。As-A と As-B を多く含む。部分的に下部が酸化する。

III層は黒褐色土 (10YR3/2) である。As-B を多く含む。

IV層は遺物包含層の黒褐色土 (10YR3/1) である。As-B は含まない。西側から中央にかけては20cm、東側では30cmの層厚がある。

V層は黒褐色土 (10YR3/1) である。遺物をほとんど含まない。調査区西側で確認される。

VI層は黄褐色土 (2.5YR5/3) である。地山となる高崎泥流層である。



第4図 グリッド設定図 (1/200) 及び標準堆積土層 (1/20)

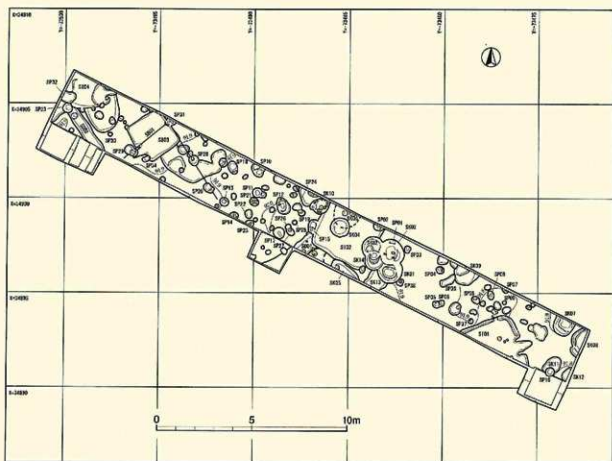
## 第5章 遺構と遺物

### 第1節 調査の概要

竪穴住居跡4軒と掘立柱建物1棟、溝2条、土坑14基、ピット38基を検出した。7世紀代が主体である。

竪穴住居跡の時期は1～3号住居跡が7世紀前半で重複なく点在するが、3号住居跡が東西にカマドを有するなど、主軸方位やカマドの位置が不揃いである。4号住居跡は7世紀末と後出し、カマドの袖石に角閃石安山岩を使用している。1号掘立柱建物や土坑群（1～4・6・14号土坑）は7世紀前半の竪穴住居跡を切っている。溝は1号溝が古墳時代前期の可能性があり、2号溝はAs-Bを含み、平安時代以降である。奈良平安時代の遺構は確認されていない。

遺物は7世紀代の土師器・甕が圧倒的に多く、須恵器では坏・蓋・高杯・盤・鉢・甕などがある。土器以外には滑石製白玉、金環、土鍾などが出土した。奈良平安時代や中世の遺物は皆無に近い状況である。このほか、1号溝の周辺からは古墳時代前期のS字甕の破片が出土し、2号溝には縄文時代の打製石斧が混入していた。



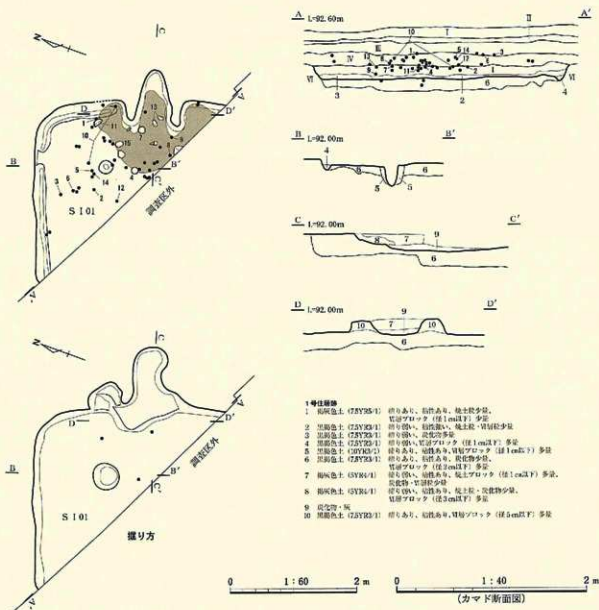
第5図 新後附遺跡3全体図 (1/200)



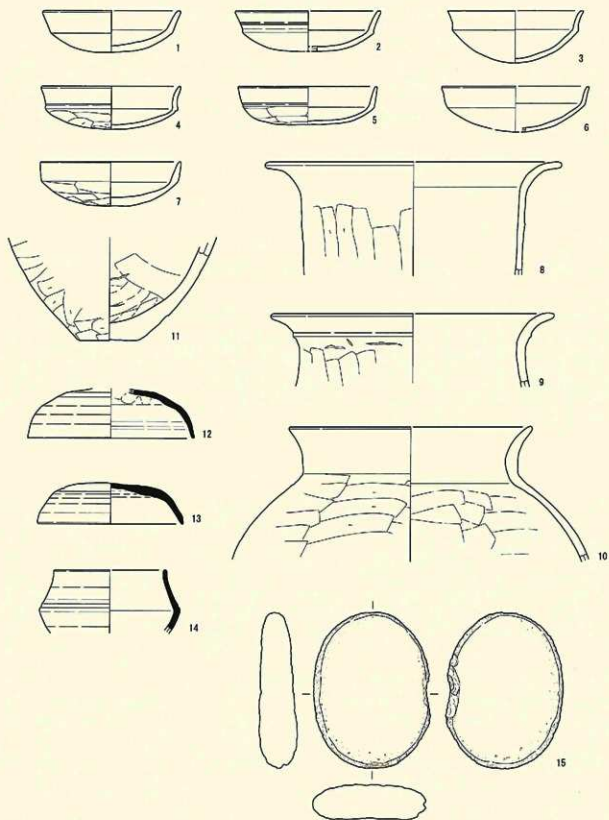
## 第2節 竪穴住居跡

### 1号住居跡 (第6・7図, P.L. 2・4・7)

形状・規模 南西側は調査区外となり、東西2.8m以上、南北3.0m以上の規模である。深さは25cm前後である。重複なし。床面 概ね平坦であるが、硬化面は顕著ではない。周溝 東壁北半から北壁沿いにかけて検出したが、北壁沿いで途切れる箇所がある。幅15cm前後、深さ10cm前後。貯蔵穴 不明。柱穴 推定される4本柱のうち北東部の1基を検出した。径20cmの円形を呈し、深さ41cm。カマド 東壁の中央に構築される。地山VI層を主体とした粘土で構築された両軸が竪穴内へ45cmほど張り出す。燃焼部は幅38cm、奥行60cmを測る。明瞭な火床面はなかったが、燃焼部底面で焼土が散在し、カマド周辺には炭化物の堆積が広く確認された。煙道部は縦



第6図 1号住居跡平面図・断面図



0 5 10cm

第7圖 1号住居跡出土遺物

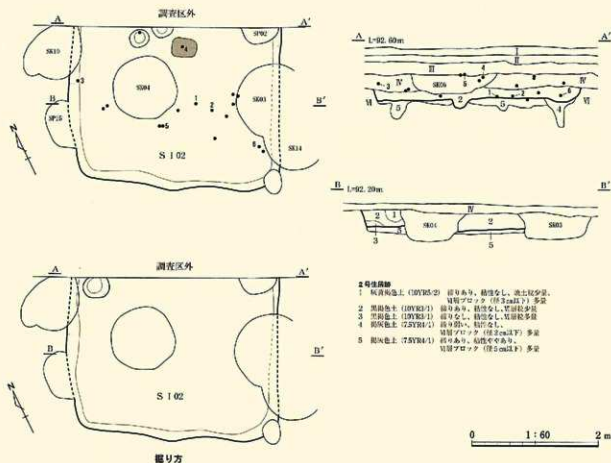
やかに立ち上がり、堅穴外へ50cm張り出す。方位 N-72°-E。掘り方 床面から概ね20cmの深さまで掘り込まれ、炭化物を含む黒褐色土が充填される。床下土坑はみられない。遺物 出土遺物の多くが覆土の上層から出土し、土師器杯(1~6)・甕(8~11)、須恵器蓋(12)・高坏(14)などがある。カマドの覆土下層からは須恵器蓋(13)が割れた状態で、土師器杯(7)が左袖端部付近から出土した。図示した以外には須恵器甕・甕が破片で出土している。時期 出土遺物から7世紀前半と考えられる。

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土位置
1	土師器杯	口径(11.0) 底径 - 器高 3.3	①普通、酸化 ②明赤褐色~橙 色 ③白色粒・赤褐色粒 ④口縁部~底部1/4	外面 口縁部横撫で、体部~底部是削り。 内面 口縁部横撫で。	カマド左脇
2	土師器杯	口径(11.6) 底径 - 器高 3.2	①良好、酸化 ②明赤褐色 ③雲母・白色粒 ④口縁部~底部1/2	外面 口縁部横撫で、体部~底部是削り。 内面 口縁部~体部横撫で、底部撫で。	北部
3	土師器杯	口径(10.8) 底径 - 器高 4.1	①普通、酸化 ②橙色 ③白色粒・赤褐色粒 ④口縁部~底部1/2	外面 口縁部横撫で、体部~底部是削り。 内面 口縁部横撫で。	北部
4	土師器杯	口径 11.0 底径 - 器高 3.4	①良好、酸化 ②橙色 ③角閃石・白色粒・赤褐色粒 ④口縁部1/4欠損	外面 口縁部横撫で、体部~底部是削り。 内面 口縁部~体部横撫で、底部撫で。	中央部
5	土師器杯	口径 11.0 底径 - 器高 3.0	①良好、酸化 ②橙色 ③白色粒・赤褐色粒 ④口縁部~底部3/4	外面 口縁部横撫で、体部~底部是削り。 内面 口縁部~体部横撫で、底部撫で。	北部
6	土師器杯	口径 11.7 底径 - 器高 -	①良好、酸化 ②橙色 ③雲 母・角閃石・白色粒・赤褐色粒 ④口縁部~底部2/3	外面 口縁部横撫で、体部~底部是削り。 内面 口縁部~体部横撫で。	北部
7	土師器杯	口径 11.2 底径 - 器高 3.5	①良好、酸化 ②にぶい橙色~ 橙色 ③雲母・白色粒 ④欠損	外面 口縁部横撫で、体部~底部是削り。 内面 口縁部~体部横撫で、底部撫で。 ※外面に黒煤。	カマド内
8	土師器甕	口径(23.6) 底径 - 器高 -	①良好、酸化 ②赤褐色~にぶ い褐色 ③石英・片岩・赤褐色 粒 ④口縁部~胴部上位1/4	外面 口縁部横撫で、胴部是削り。 内面 口縁部横撫で、胴部是削り。	カマド前面
9	土師器甕	口径(22.6) 底径 - 器高 -	①良好、酸化 ②灰黄褐色 ③角閃石・白色粒・赤褐色粒 ④口縁部~胴部上位1/4	外面 口縁部横撫で、胴部是削り。 内面 口縁部横撫で、胴部是削り。	カマド右袖 前
10	土師器甕	口径(19.3) 底径 - 器高 -	①良好、酸化 ②褐色~にぶ い褐色 ③石英・片岩・赤褐色 粒 ④口縁部~胴部上位1/4	外面 口縁部横撫で、胴部是削り。 内面 口縁部横撫で、胴部是削り。	カマド左脇 と北部
11	土師器甕	口径 - 底径 4.8 器高 -	①良好、酸化 ②褐色~灰黄褐 色 ③石英・片岩・赤褐色粒 ④胴部下位~底部	外面 胴部~底部是削り。 内面 胴部~底部横撫で。	カマド左脇
12	須恵器蓋	口径(13.1) 底径 - 器高 -	①良好、還元 ②灰白色 ③白色粒 ④天井部~口縁部1/6	外面 碗盤整形、天井部同軸是削り。 内面 碗盤整形、天井部撫で。	中央部
13	須恵器蓋	口径 11.4 底径 - 器高 3.3	①普通、還元 ②灰色 ③石英・砂層多い ④口縁部1/4欠損	外面 碗盤整形、天井部同軸是削り。 内面 碗盤整形。 ※外面に重ね焼き痕。	カマド内
14	須恵器高坏	口径(9.0) 底径 - 器高 -	①良好、還元 ②灰色 ③白色粒 ④坏部1/6	外面 碗盤整形。 内面 碗盤整形。	北部
15	扁平権	長さ12.35cm、幅9.25cm、厚さ3.05cm。 重さ477.03g、安山岩。		表・裏面に牽毛痕が認められ、牽毛範囲はやや光沢を帯びる。 器面に赤みある(炭分の影響か)。	中央部

第2表 1号住居跡出土遺物観察表

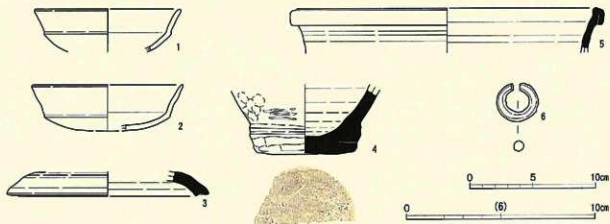
## 2号住居跡(第8・9図、P.L. 2・6、巻頭図版)

**形状・規模** 北側は調査区外となり、東西3.3m、南北2.6m以上の規模である。深さ33cmである。重複1号溝を切り、3・4・6・10・14号土坑、2号ピットに切られる。床面 概ね平坦であるが、南壁沿いがやや低くなっている。床面は全体的に硬化する。中央部北寄りで40cm×30cmの隅丸長方形の範囲に炭化物がみられた。溝溝・貯蔵穴 検出されなかった。柱穴 主柱穴はない。北寄りで深さ15cm以下のピット2基を検出したが、住居に付随するか判断できない。カマド 調査区外の北壁に構築されたと推定される。方位 東壁N-26°-E。掘り方 床面から概ね10cmの深さまで掘り込まれ、地山ブロックを多く含む褐色土が充填される。床下土坑はみられないが、北西部で径40cm、深さ26cm程度の円形のピットが検出された。遺物 床面出土遺物はほとんどなく、覆土から土師器環(1・2)、須恵器蓋(3)・鉢(4)・甕(5)、金環(6)などが出土した。時期 出土遺物が少なく断定できないが、7世紀前半と推定される。



第8図 2号住居跡平面図・断面図





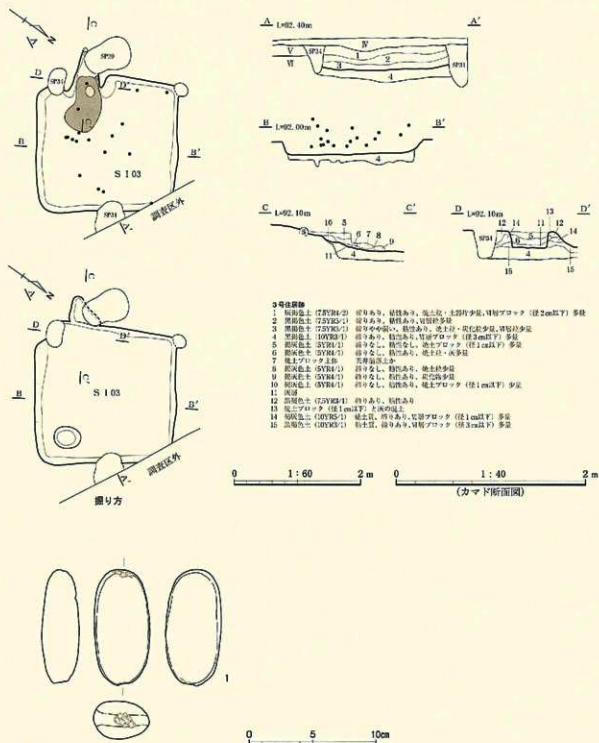
第9図 2号住居跡出土遺物

番号	器種	法量(cm)	①構成 ②色調 ③釉土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土位置
1	土師器 杯	口径 (11.6) 底径 - 器高 -	①普通、酸化 ②棕色 ③赤褐色皮 ④口縁部～体部1/4	外面 口縁部横溝で、体部丸削り。 内面 口縁部～体部横溝で。	中央部
2	土師器 杯	口径 (12.0) 底径 - 器高 (3.7)	①普通、酸化 ②棕色～明赤褐色 ③赤褐色粒 ④口縁部～底部1/3	外面 口縁部横溝で、体部～底部丸削り。 内面 口縁部～体部横溝で、底部皮で。	中央部
3	須恵器 壺	口径 (16.0) 底径 - 器高 -	①良好、還元 ②灰色 ③白色粒・砂塵 ④体部～口縁部1/8	外面 縦輪整形。 内面 縦輪整形。	西壁沿い
4	須恵器 鉢	口径 - 底径 7.6 器高 -	①良好、還元 ②灰白色～灰色 ③白色粒・砂塵 ④割部下位～底部1/2	外面 縦輪整形。胴部下位宛先状工具痕と指納痕、割部下位～ 底面丸削り。 内面 縦輪整形。	中央部北側
5	須恵器 壺	口径 (25.0) 底径 - 器高 -	①良好、還元 ②暗灰色～灰白色 ③白色粒・砂塵 ④口縁部1/8	外面 縦輪整形。 内面 縦輪整形。	中央部
6	耳環 (金環)	長さ2.0cm、幅2.2cm、厚さ0.5cm、重さ3.79g。			南東部

第3表 2号住居跡出土遺物観察表

## 3号住居跡 (第10図、P.L. 2・3・7)

形状・規模 北側隅が調査区外だが、2.1m×2.2m四方の隅丸方形である。深さは28cmである。重葺 1号掘立柱建物の柱穴(29・31号ビット)、34号ビットに切られる。床面 概ね平直で、全体的に硬化する。周溝・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。カマド 南西壁の南東寄りに構築される。地山ブロックを多く含む褐色灰色粘質土で構築された両袖が堅穴内へ36cmほど張り出す。燃焼部は幅36cmを測り、緩やかに立ち上がる煙道部は堅穴外へ40cm張り出す。煙道部先端の礎は地山中の自然礫である。燃焼部には18cm×14cmの範囲で火床面が検出され、燃焼部からカマド前面にかけて炭化物の堆積が確認された。方位 N-126°-W。掘り方 床面から概ね15cmの深さまで掘り込まれるが、凹凸が顕著である。地山ブロックを多く含む黒褐色土が充填される。床下土坑はみられないが、東側隅で径42cm×34cm、深さ31cmの円形のビットが検出された。遺物 床面出土遺物は少なく、覆土中から土師器杯・壺、棒状環(1)が出土した。須恵器は出土していない。時期 わずかな出土遺物から7世紀前半と推定される。



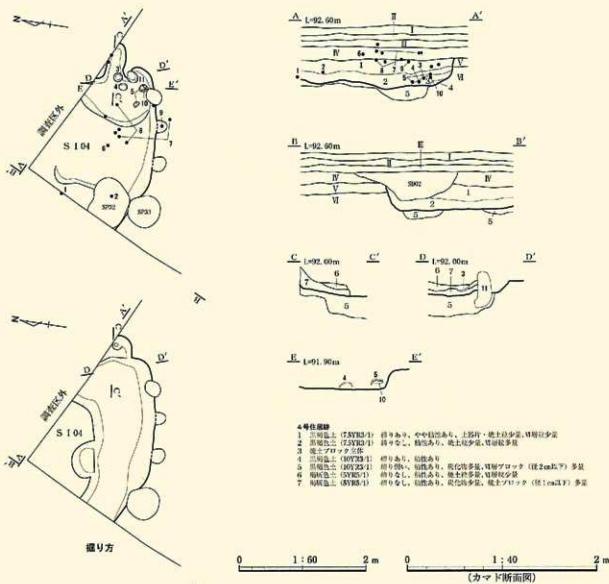
第10図 3号住居跡平面図・断面図・出土遺物

番号	器種	度量など	成・整形技法の特徴	出土位置
1	棒状埴	長さ9.3cm、幅4.4cm、厚さ3.0cm、 重さ176.82g、安山岩。	上下端部に小さな微打が集中する。表・裏面に鋭い稜線あり。	掘上

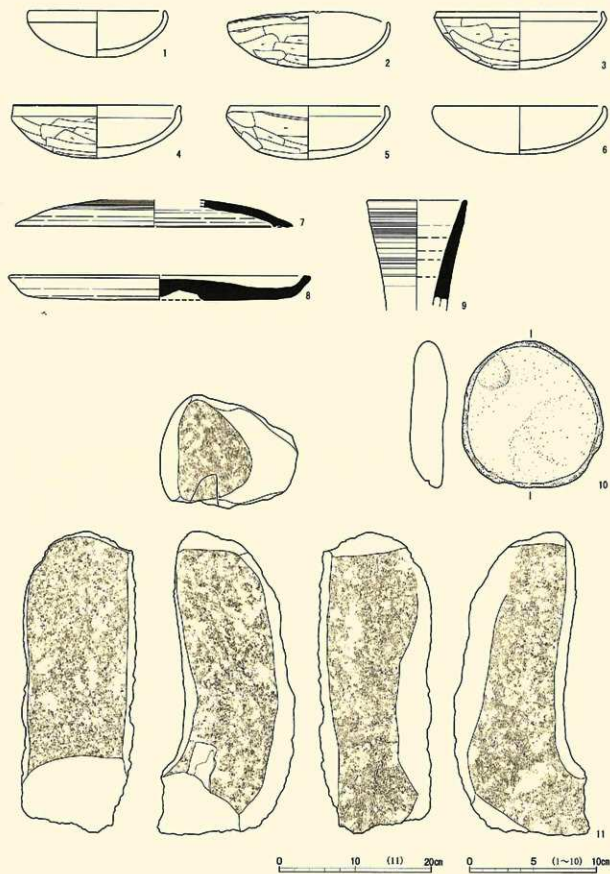
第4表 3号住居跡出土遺物観察表

4号住居跡 (第11・12図、P.L. 3・5・7、巻頭図版)

**形状・規模** 北側が調査区外となる。約2.5m四方の隅丸方形と推定されるが、南西隅はプランが不明瞭である。深さは24cmである。**重複** 32号ピットに切られる。覆土上層で2号溝に切られる。床面 カマド前面に向かってやや低くなる傾斜があり、床面も軟化する。周溝・貯蔵穴・柱穴 検出されなかった。カマド 東壁の南寄りに構築される。両袖は黒褐色粘質土で構築され、堅穴内へ20cmほど張り出す。右袖先端の外側には角閃石安山岩の加工石(11)が立てられていたが、左袖にはそのような痕跡は確認できなかった。燃焼部は幅25cmを測り、煙道部にかけて緩やかに立ち上がる。煙道部は堅穴外へ40cm張り出す。内壁はよく焼けていたが、燃焼部に明瞭な火床面はなく、底面に炭化物や焼土、灰白色の粘土が散在する状況であった。カマドの覆土には加工石(11)と同じ角閃石安山岩の剥片が少量含まれていた。**方位** N-84°-E。掘り方 壁沿いを溝状に深く掘り下げる。最大幅1.0m、深さ34cmを測る。炭化物を多く含む黒褐色土を充填しているが、湧水のために軟弱な土である。**遺物** 覆土上層からは土師器杯(6)・莞、須恵器釜(7)・盤(8)・長頸甕(9)・甕などが出土した。カマド周辺



第11図 4号住居跡平面図・断面図



第12图 4号住居跡出土遺物



## 第5章 遺構と遺物

からは、土師器環(3)が正位で、土師環(4・5)は逆位で出土し、とくに5は中に扁平環(10)を入れた状態で出土している。カマドの右軸石(11)は下端の屈曲部分で欠損しており、何らかの石製品を転用した可能性がある。時期 出土遺物から7世紀末と考えられる。

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土位置
1	土師器環	口径 107 底径 - 器高 3.7	①普通、酸化 ②橙色 ③雲母・角閃石・白色粒 ④完形	外面 口縁部横撫で、体部～底部挽削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	住居中央奥側
2	土師器環	口径 126 底径 - 器高 4.5	①良好、酸化 ②橙色 ③雲母・角閃石・白色粒 ④完形	外面 口縁部横撫で、体部～底部挽削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	西部
3	土師器環	口径 132 底径 - 器高 4.6	①良好、酸化 ②橙色 ③雲母・角閃石・赤褐色粒 ④完形	外面 口縁部横撫で、体部～底部挽削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	カマド
4	土師器環	口径 131 底径 - 器高 4.2	①良好、酸化 ②明赤褐色 ③角閃石・白色粒・赤褐色粒 ④完形	外面 口縁部横撫で、体部～底部挽削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	カマド前面
5	土師器環	口径 123 底径 - 器高 4.3	①良好、酸化 ②橙色～明赤褐色 ③雲母・赤褐色粒 ④完形	外面 口縁部横撫で、体部～底部挽削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	カマド右袖付近
6	土師器環	口径(13.4) 底径 - 器高 3.8	①良好、酸化 ②橙色～明赤褐色 ③角閃石・白色粒 ④	外面 口縁部横撫で、体部～底部挽削り。 内面 口縁部～体部横撫で、底部撫で。	中央部
7	須恵器蓋	口径(21.9) 底径 - 器高 -	①良好、還元 ②黄灰色～灰色 ③白色粒 ③体部～口縁部1/3	外面 縦線整形、体部カキメ。 内面 縦線整形、体部擦痕直。	中央部と包含層
8	須恵器蓋	口径(23.0) 底径(21.0) 器高 2.0	①普通、還元 ②灰白色 ③砂粒 ④口縁部～体部1/10、底部1/2	外面 縦線整形、底部手持ち削削り。 内面 縦線整形。	中央部とカマド前面
9	須恵器長頸壺	口径(7.7) 底径 - 器高 -	①良好、還元 ②黄灰色～灰色 ③白色粒・赤褐色粒 ④口縁部1/2	外面 縦線整形、口縁部カキメ。 内面 縦線整形。	南壁沿い
10	扁平環	長さ11.6cm、幅11.2cm、厚さ2.95cm。 重さ565.80g、安山岩。		人的な二次加工や使用痕は認められない。	No5の下
11	石築基	長さ40.1cm、幅17.9cm、厚さ15.0cm。 重さ9.5kg、角閃石安山岩。		四側面と上下面ともに敲打と磨削。下面の一部欠損。一部側面下半に溝状の抉り。	カマド右軸石

第5表 4号住居跡出土遺物観察表

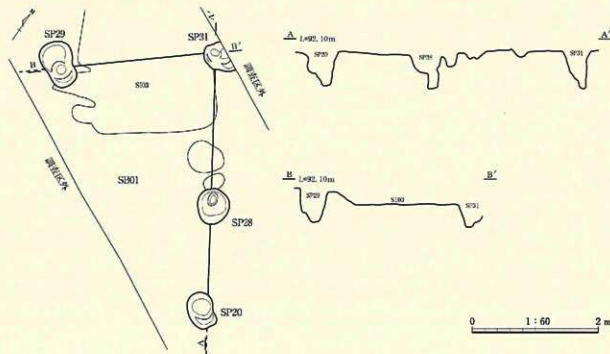
## 第3節 掘立柱建物

### 1号掘立柱建物(第13図, P.L. 3)

3号住居跡を切って検出された。南側の調査区外へ延び、2×3間程度と推測される。桁行は3基の柱穴(SP31・28・20)を検出し、総長は4.2m以上である。梁行は2基の柱穴(SP29・31)を検出し、総長は2.5m以上である。柱穴掘り方は隅丸長方形を基調とし、柱間は径15～20cmである。深さは52～61cmである。桁行の方位はN-22°-W。遺物は土師器環・須、須恵器蓋が少量出土した。時期は7世紀代と考えられる。

## 第4節 土坑・ピット

土坑は14基検出した(第14・15図, P.L. 3・6・7)。1～4・6・14号土坑は2号住居跡の埋没後に掘削された円形の土坑である。1号土坑は径1.2m、深さ55cm、2号土坑は径1.4m、深さ69cm、3号土坑は1.2m、深さ52cm、4号土坑は径1.0m、深さ53cm、6号土坑は径1.4m、深さ30cm、14号土坑は径1.0m、深さ42cmである。いずれも焼土や炭化物を多く含む覆土が共通し、とくに2号土坑で焼土塊が多く出土した。土坑の底面や壁面に被熱



第13図 1号掘立柱建物平面図・断面図

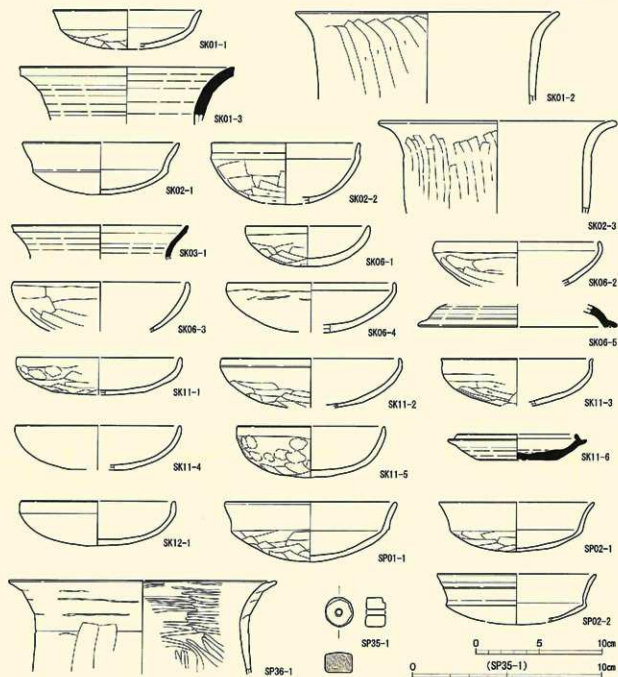
した痕跡はみられないので、連続して掘削された何らかの廃棄土坑と考えられる。遺物は土師器杯が比較的多く出土し、6号土坑が7世紀後半、それ以外は7世紀前半のものである。5号土坑は長軸1.6m以上、深さ26cmの不整形、9号土坑は径1.2m、深さ25cmの不整形の土坑である。出土遺物がほとんどなく、詳細は不明である。10号土坑は2号住居跡を切る樹木痕の可能性があり、7・8・11・12号土坑は1号住居跡の東側にある土坑で、7号土坑は一辺1.0m、深さ40cmの隅丸方形、8号土坑は径1.4m以上、深さ34cmの円形、11号土坑は長軸1.07m、短軸0.77m、深さ10cmの隅丸長方形、12号土坑は径82cm以上、深さ17cmの円形の土坑である。遺物は11号土坑で土師器杯(1~4)・甕、須恵器蓋(5)・甕・瓶が、12号土坑から土師器杯(1)が出土し、いずれも7世紀後半のものである。13号土坑は一辺1.1m程度の方形ないし長方形で、1・14号土坑に切られる。地山ブロックにより埋め戻されているが、遺物がなく詳細は不明である。

ピットは主なものでは38基検出し、第6・7表に一覧を示した。いずれのピットもわずかな出土遺物から7世紀代のものと推測される。1号掘立柱建物の東側には掘立柱建物の柱穴を構成するようなピットが複数あり(10~13・17号ピットなど)、別の建物が存在したことも想定される。1号ピットは底面から土師器杯(1)が出土しており、故意に置かれたものである。10号ピットからは土師器甕の胴部片が多く出土し、柱穴の掘り方に混入したものと考えられる。

番号	形状	長径/短径/深さ (m)	出土遺物等
SP01	円形	32/-/49	SK0220面で作出、土師器杯。
SP02	円形	56/-/64	SK02より新しい、土師器杯、須恵器蓋。
SP03	円形	37/33/26	土師器蓋。
SP04	円形	41/37/42	土師器杯・甕。
SP05	円形	37/35/54	土師器蓋。
SP06	円形	29/26/32	土師器蓋。
SP07	円形	36/-/38	土師器蓋。
SP08	楕円形	47/34/41	
SP09	円形	22/21/14	
SP10	円形	49/44/38	土師器杯・甕。
SP11	円形	51/47/51	土師器杯・甕、須恵器蓋。
SP12	楕円形	56/48/45	土師器杯・甕、瓶。
SP13	円形	49/44/44	土師器杯・甕。
SP14	円形	45/-/48	土師器杯・甕。
SP15	楕円形	73/-/56	SK02と重複、土師器蓋。
SP16	隅丸長方形	44/43/40	SK11より古い。
SP17	円形	61/56/35	土師器杯・甕。
SP18	楕円形	70/48/45	土師器蓋、須恵器杯・甕。
SP19	円形	24/18/37	土師器杯。

第6表 ピット一覧表①





第15図 土坑・ピット出土遺物

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土位置
1号土坑 1	土師器 環	口径 (11.8) 底径 - 器高 (3.1)	①普通、酸化 ②灰色 ③角閃石・白色粒 ④口縁部～底部1/4	外面 口縁部横撫で、底部～底部端削り。 内面 口縁部～底部横撫で、底部挫で。	覆土上層
1号土坑 2	土師器 类	口径 (21.0) 底径 - 器高 -	①普通、酸化 ②にょい・褐色～ 灰褐色 ③石夾・片骨・赤褐色 粒 ④口縁部～胴部上位1/4	外面 口縁部横撫で、胴部端削り。 内面 口縁部横撫で、胴部端削り。	覆土上層
1号土坑 3	埴土器 甕	口径 (17.0) 底径 - 器高 -	①良好、還元 ②灰色 ③白色粒・砂粒 ④口縁部1/4	外面 管状成形。 内面 横撫成形。	覆土上層

第8表 土坑・ピット出土遺物観察表①



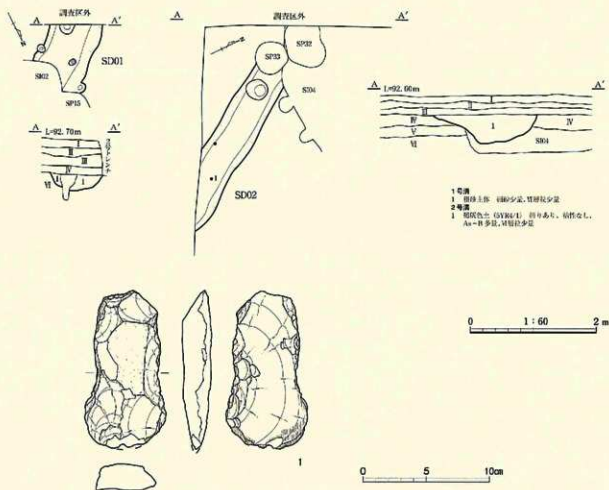
## 第5章 遺構と遺物

番号	器種	量量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土位置
2号土坑 1	土師器 杯	口径(12.4) 底径— 器高4.2	①普通、酸化 ②橙色 ③白色粒・赤褐色粒 ④口縁部~底部1/3	外面 口縁部横指で、底部~底部は削り。 内面 口縁部~底部横指で、底部は削り。	甌土層下層
2号土坑 2	土師器 杯	口径(11.8) 底径— 器高(4.9)	①良好、酸化 ②橙色~明赤褐色 ③白色粒・赤褐色粒 ④口縁部~底部1/4	外面 口縁部横指で、底部~底部は削り。 内面 口縁部~底部横指で、底部は削り。	甌土層
2号土坑 3	土師器 壺	口径(19.0) 底径— 器高—	①良好、酸化 ②にぶい褐色 ③片岩・白色粒 ④口縁部~胴部上位1/4	外面 口縁部横指で、胴部は削り後に施す。 内面 口縁部横指で、胴部は削り。	甌土層
2号土坑 4	灰土類	径5cm以下の粘土塊で、焼熟する。赤褐色粒・砂塵・スカを含む。			甌土層
3号土坑 1	須恵器 壺	口径(14.0) 底径— 器高—	①良好、還元 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部1/4	外面 楕圓盤形。 内面 楕圓盤形。	甌土層
6号土坑 1	土師器 杯	口径(9.8) 底径— 器高3.2	①良好、酸化 ②橙色 ③赤褐色・赤褐色粒 ④口縁部~底部1/4	外面 口縁部横指で、底部~底部は削り。 内面 口縁部~底部横指で、底部は削り。	甌土層
6号土坑 2	土師器 杯	口径(13.0) 底径— 器高—	①良好、酸化 ②にぶい黄褐色 ~にぶい藍色 ③赤褐色・角閃石・白色粒 ④口縁部~底部1/4	外面 口縁部横指で、底部は削り。 内面 口縁部~底部横指で、底部は削り。	甌土層
6号土坑 3	土師器 杯	口径(13.8) 底径— 器高—	①良好、酸化 ②橙色 ③赤褐色・角閃石・白色粒 ④口縁部~底部1/4	外面 口縁部横指で、底部は削り。 内面 口縁部~底部横指で、底部は削り。	甌土層
6号土坑 4	土師器 杯	口径(13.8) 底径— 器高—	①良好、酸化 ②橙色 ③赤褐色・角閃石・白色粒 ④口縁部~底部1/4	外面 口縁部横指で、底部~底部は削り、輪部は滑り。 内面 口縁部~底部横指で、底部は削り。	甌土層
6号土坑 5	須恵器 壺	口径(15.8) 底径— 器高—	①良好、還元 ②灰色 ③白色粒 ④底部~口縁部1/4	外面 楕圓盤形。 内面 楕圓盤形。	甌土層
11号土坑 1	土師器 杯	口径(12.9) 底径— 器高(3.0)	①良好、酸化 ②明赤褐色 ③赤褐色・角閃石・白色粒・赤褐色粒 ④口縁部~底部1/4	外面 口縁部横指で、底部~底部は削り。 内面 口縁部~底部横指で、底部は削り。	甌土層
11号土坑 2	土師器 杯	口径(14.0) 底径— 器高—	①良好、酸化 ②明赤褐色~橙色 ③赤褐色・白色粒・赤褐色粒 ④口縁部~底部1/4	外面 口縁部横指で、底部は削り。 内面 口縁部~底部横指で、底部は削り。	甌土層
11号土坑 3	土師器 杯	口径(11.9) 底径— 器高—	①良好、酸化 ②にぶい褐色 ③赤褐色・白色粒 ④口縁部~底部1/4	外面 口縁部横指で、底部は削り。 内面 口縁部~底部横指で、底部は削り。	甌土層
11号土坑 4	土師器 杯	口径(13.0) 底径— 器高—	①良好、酸化 ②橙色 ③角閃石・白色粒・赤褐色粒 ④口縁部~底部1/4	外面 口縁部横指で、底部~底部は削り。 内面 口縁部横指で、底部は削り。	甌土層
11号土坑 5	土師器 杯	口径11.6 底径— 器高4.1	①良好、酸化 ②にぶい黄褐色 ~褐色 ③石英・角閃石・白色粒 ④口縁部~底部1/2欠損	外面 口縁部横指で、底部は削り。 内面 口縁部~底部横指で、底部は削り。	甌土層
11号土坑 6	須恵器 杯	口径(9.4) 底径(6.3) 器高2.1	①良好、還元 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部~底部1/6	外面 楕圓盤形、底部は削り。 内面 楕圓盤形。	甌土層
12号土坑 1	土師器 杯	口径(12.0) 底径— 器高3.0	①良好、酸化 ②明赤褐色 ③赤褐色・角閃石・白色粒・赤褐色粒 ④口縁部~底部1/3	外面 口縁部横指で、底部~底部は削り。 内面 口縁部~底部横指で、底部は削り。	甌土層
1号ピット 1	土師器 杯	口径13.6 底径— 器高4.8	①良好、酸化 ②にぶい黄褐色 ③チャート・角閃石・白色粒・赤褐色粒 ④口縁部1/4欠損	外面 口縁部横指で、底部~底部は削り。 内面 口縁部~底部横指で、底部は削り。	底面
2号ピット 1	土師器 杯	口径(12.3) 底径— 器高4.0	①普通、酸化 ②橙色 ③赤褐色粒 ④口縁部~底部2/3欠損	外面 口縁部横指で、底部~底部は削り。 内面 口縁部~底部横指で、底部は削り。	甌土層
2号ピット 2	土師器 杯	口径(12.6) 底径— 器高—	①普通、酸化 ②橙色 ③赤褐色・赤褐色粒 ④口縁部~底部1/3	外面 口縁部横指で、底部~底部は削り。 内面 口縁部横指で、底部~底部は削り。	甌土層
3号ピット 1	白土	長さ1.5cm、幅1.5cm、厚さ1.0cm、孔径3mm、重さ4.28g、滑石質、側面に噴き。			甌土層
3号ピット 1	土師器 壺	口径(21.2) 底径— 器高—	①良好、酸化 ②にぶい褐色~ にぶい黄褐色 ③角閃石・白色粒・赤褐色粒 ④口縁部~胴部上位1/6	外面 口縁部横指で、胴部は削り。 内面 口縁部~胴部は削り。	甌土層

第9表 土坑・ピット出土遺物観察表②

## 第5節 溝

2条の溝を検出した(第16図、P.L.3・7)。1号溝はN-55°-Eの方に直線的に延びる溝である。上幅81cm、深さ22cmを測り、断面形状は弧状である。2号住居跡に切られるが、2号トレンチで南側の延長を確認している。粗砂で埋没している。遺物は出土していないが、1号溝周辺の遺物包含層から古墳時代前期の台付甕が数片出土しており、関連が窺われる。2号溝は4号住居跡を切る溝で、N-31°-Wの方に直線的に延びる。遺物包含層を切ることから層位的に新しく、覆土にはAs-Bが含まれる。上幅65cm以上、深さは調査区壁面で45cm、断面形状は逆台形に近い。遺物は土師器坏・甕、須恵器甕、打製石斧(1)が出土したが、時期は特定できない。



第16図 1・2号溝平面図・断面図、2号溝出土遺物

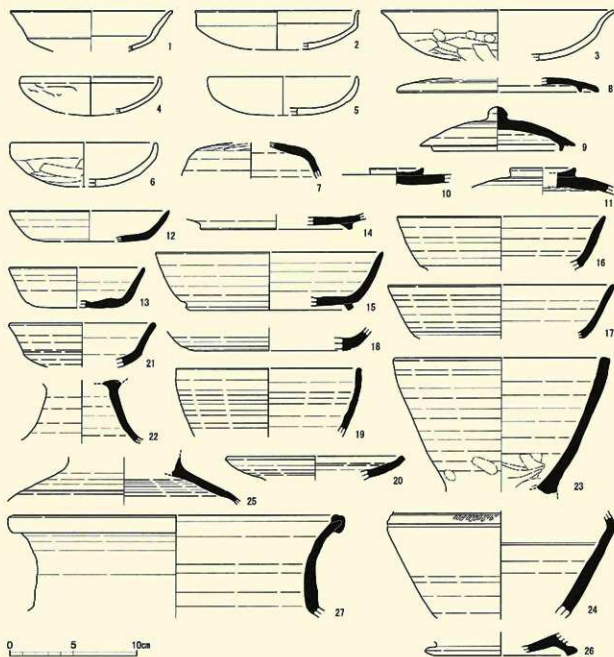
番号	器種	法量など	成・整形技法の特徴	出土位置
1	打製石斧	残存長12.5cm、幅6.45cm、厚さ2.3cm。 重さ205.64g、貫眼。	粉形。縞皮をもつ剥片を素材とする。刃部に使用痕とみられる 牽痕がある。	覆土

第10表 2号溝出土遺物観察表

第6節 包含層出土遺物

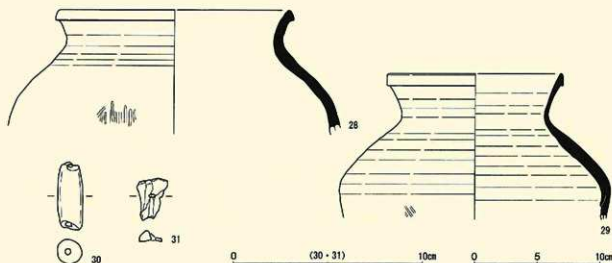
遺物包含層からは主に7世紀代の土師器・須恵器が出土した。土師器は模倣杯(1~3)と内湾する口縁部形状(4~6)があり、竪穴住居跡出土のものと同様である。土師器甕は器形の分かる資料はないが、概ね7世紀代のものである。1号溝周辺のA8・B9グリッドでは古墳時代前期のS字壺の破片が数点出土し、同溝との関連が注意される。

須恵器は蓋・坏・高杯・鉢・瓶・甕などがある。蓋は返りの付くもの(8・9)が多く、柄は宝珠形(9)と扁平なもの(10・11)がある。坏は無台坏(12・13)と有台坏(14~18)があり、16・17は削り出し高台である。



第17図 包含層出土遺物①

碗 (19)、盤 (20)、高杯 (21・22)、鉢 (23) はごく少量である。瓶・壺 (24~26)、甕 (27~29) は一定量の出土がある。B14・15 で出土した 28・29 はいずれも二次的な焼成破綻痕があり、29 は接合しない破片が多くある。ほかに土錘 (30)、滑石の穿孔片 (31) がある。



第18図 包含層出土遺物②

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土位置
1	土師器 環	口径 (12.8) 底径 - 器高 -	①良好(軟質)、酸化 ②褐色 ③雲母・角閃石・赤褐色粒 ④口縁部~体部1/4	外面 口縁部横撫で、体部挽削り。 内面 口縁部横撫で。	A9
2	土師器 環	口径 (13.0) 底径 - 器高 -	①良好、酸化 ②褐色 ③角閃石・白色粒・赤褐色粒 ④口縁部~体部1/4	外面 口縁部横撫で、体部挽削り。 内面 口縁部~体部横撫で。	A11
3	土師器 環	口径 (18.6) 底径 - 器高 -	①良好、酸化 ②明赤褐色 ③雲母・角閃石・白色粒・赤褐色粒 ④口縁部~体部1/4	外面 口縁部横撫で、体部挽削りと指頭痕。 内面 口縁部~体部横撫で。	B14・B15
4	土師器 環	口径 (11.0) 底径 - 器高 -	①良好、酸化 ②にぶい褐色 ③雲母・白色粒 ④口縁部~体部1/4	外面 口縁部横撫で、体部指削りと輪積み痕。 内面 口縁部~体部横撫で。	調査区東部
5	土師器 環	口径 (11.8) 底径 - 器高 -	①良好、酸化 ②褐色 ③雲母・角閃石 ④口縁部~底部1/4	外面 口縁部横撫で、体部~底部挽削り。 内面 口縁部~体部横撫で、底部撫で。	A3
6	土師器 環	口径 (11.7) 底径 - 器高 -	①良好、酸化 ②にぶい褐色 ③雲母・角閃石・白色粒・赤褐色粒 ④口縁部~底部1/3	外面 口縁部横撫で、体部~底部挽削り。 内面 口縁部~体部横撫で、底部撫で。	A1
7	須恵器 蓋	口径 - 底径 - 器高 -	①良好、還元 ②灰白色 ③白色粒 ④天井部~体部1/4	外面 楕圓盤形、天井部手持ち痕削り。 内面 楕圓盤形。	A4
8	須恵器 蓋	口径 (16.0) 底径 - 器高 -	①良好、還元 ②灰白色 ③白色粒 ④体部~口縁部1/8	外面 楕圓盤形。 内面 楕圓盤形。	A2
9	須恵器 蓋	口径 (12.2) 底径 - 器高 3.5	①やや不良、還元 ②灰白色 ③砂粒 ④天井部~口縁部1/4	外面 楕圓盤形、天井部指痕削り。 内面 楕圓盤形。	調査区東部
10	須恵器 蓋	口径 - 底径 - 器高 -	①良好、還元 ②灰色 ③白色粒 ④天井部1/4	外面 楕圓盤形、天井部カキメ。 内面 楕圓盤形、天井部指痕削り。	調査区西部

第11表 包含層出土遺物観察表①

第5章 遺構と遺物

番号	器種	法量(cm)	①構成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	出土位置
11	須恵器 蓋	口径 - 底径 - 器高 -	①良好、還元 ②灰色 ③白色粒 ④天井部1/4	外面 楕圓盤形、天井部回転削り。 内面 楕圓盤形。 ※口縁部打り欠き。	調査区西部
12	須恵器 杯	口径 (12.6) 底径 (9.0) 器高 2.5	①普通、還元 ②灰色 ③白色粒・砂粒 ④口縁部・底部1/6	外面 楕圓盤形、底部回転削り。 内面 楕圓盤形。	A9
13	須恵器 杯	口径 (10.6) 底径 (7.8) 器高 3.2	①普通、還元 ②灰色～黄灰色 ③白色粒・砂粒 ④口縁部・底部1/5	外面 楕圓盤形、底部回転削り。 内面 楕圓盤形。	A1-A2
14	須恵器 杯	口径 - 底径 (12.0) 器高 -	①良好、還元 ②灰色 ③白色粒・チャート ④底部1/4	外面 楕圓盤形、底部回転削り。 内面 楕圓盤形、底部撫で。	A1
15	須恵器 杯	口径 (18.0) 底径 (13.2) 器高 4.6	①良好、還元 ②黄灰色～灰色 ③白色粒・砂粒 ④口縁部・底部1/4	外面 楕圓盤形、底部回転削り。 内面 楕圓盤形。	B2
16	須恵器 杯	口径 (16.5) 底径 - 器高 -	①普通、還元 ②黄灰色 ③白色粒 ④口縁部・底部1/6	外面 楕圓盤形。 内面 楕圓盤形。	調査区西部
17	須恵器 杯	口径 (18.0) 底径 - 器高 -	①やや不良、還元 ②灰色～灰白色 ③砂粒 ④口縁部・底部1/8	外面 楕圓盤形、底部削り出し高台。 内面 楕圓盤形。	B15
18	須恵器 杯	口径 - 底径 (11.8) 器高 -	①良好、還元 ②灰色 ③白色粒 ④底部・底部1/8	外面 楕圓盤形、底部削り出し高台。 内面 楕圓盤形。	調査区西部
19	須恵器 碗	口径 (14.6) 底径 - 器高 -	①良好、還元 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部・底部1/6	外面 楕圓盤形。 内面 楕圓盤形。	A2
20	須恵器 盆	口径 (13.8) 底径 - 器高 -	①普通、還元 ②灰白色～灰色 ③白色粒 ④口縁部・底部1/6	外面 楕圓盤形。 内面 楕圓盤形。	A5
21	須恵器 高杯	口径 (11.6) 底径 - 器高 -	①普通、還元 ②灰色 ③白色粒 ④口縁部・底部1/8	外面 楕圓盤形。 内面 楕圓盤形。	A5
22	須恵器 高杯	口径 - 底径 - 器高 -	①やや不良、還元 ②浅黄色～ 灰黄色 ③白色粒・砂粒 ④脚部1/3	外面 楕圓盤形。 内面 楕圓盤形。	B6
23	須恵器 鉢	口径 (17.2) 底径 - 器高 -	①良好、還元 ②灰白色～灰黄色 ③白色粒 ④口縁部・脚部1/4	外面 楕圓盤形、脚部下端削削り。 内面 楕圓盤形、脚部下端撫で。	A2-B2
24	須恵器 長頸壺	口径 - 底径 - 器高 -	①良好、還元 ②灰色 ③白色粒 ④胴部破片	外面 楕圓盤形、肩部に2本の沈線と刺突。 内面 楕圓盤形。	A1
25	須恵器 長頸壺	口径 - 底径 - 器高 -	①良好、還元 ②灰色 ③白色粒 ④胴部・脚部1/4	外面 楕圓盤形、肩部に沈線1条。 内面 楕圓盤形。	A11
26	須恵器 深鉢	口径 - 底径 (10.4) 器高 -	①良好、還元 ②灰白色 ③細砂粒 ④底部破片	外面 楕圓盤形。 内面 楕圓盤形。	A2
27	須恵器 壺	口径 (27.2) 底径 - 器高 -	①普通、還元 ②灰色 ③白色粒・砂粒 ④口縁部1/4	外面 楕圓盤形。 内面 楕圓盤形。	B4
28	須恵器 壺	口径 (18.0) 底径 - 器高 -	①やや不良、還元 ②灰色～灰白色 ③白色粒 ④口縁部・胴部上半1/4	外面 楕圓盤形、胴部平行叩き。 内面 楕圓盤形。 ※外面あばた状削削り。	B14-B15
29	須恵器 壺	口径 (14.0) 底径 - 器高 -	①やや不良、還元 ②灰白色～黄 灰色 ③白色粒・砂粒・チャート ④口縁部・胴部中位1/5	外面 楕圓盤形、胴部下半平行叩き。 内面 楕圓盤形。 ※外面あばた状削削り。	B14-B15
30	土埴	径36, 厚13, 径33, 厚±6.56g	①普通、還元 ②によい黄褐色 ③砂粒、チャート ④完形	外面撫で。孔径 3mm。	A12
31	滑石	長さ22cm, 幅1.7cm, 厚さ0.6cm, 孔徑3mm, 重さ217g, 穿孔のある滑石片。			B13

第12表 包含層出土遺物観察表②



## 第6章 調査成果

今回の調査では、古墳時代後期の7世紀代を主体とする遺構を検出した。新後閑遺跡における既往の調査では、第1次調査で7世紀後半から8世紀前半と平安時代、第2次調査で7世紀前半と10世紀代のそれぞれ竪穴住居跡が検出されており、古墳時代後期に関しては今回の調査地点も同一の集落域にあると判断される結果となった。古墳時代後期の遺構は、7世紀前半の1～3号住居跡と1～4・14号土坑、7世紀後半の6号土坑、7世紀末の4号住居跡があり、1号掘立柱建物も7世紀代である。第1次調査にみられた7世紀後半から竪穴住居跡が密に重複する様子とは異なり、竪穴住居跡の出現が7世紀前半と先行しながらも竪穴住居跡が散在するありかたは、集落外縁部とされた第2次調査に近い傾向にある。ただし2号住居跡の跡地に連続して掘削された土坑の存在や、竪穴住居跡に掘立柱建物が伴う様子からは、積極的な土地利用の様子が窺われ、また金環の出土からも、当地が集落中心部の一画を構成したとみることできる。

7世紀前半の竪穴住居跡は、主柱穴と壁溝をもつ定型的な1号住居跡のほか、主柱穴の検出されない2・3号住居跡があり、とくに3号住居跡は小型で南西壁にカマドをもつ点が特異である。南カマドは、近隣では田端遺跡寺東地区1a号住居跡に類例がある。2号住居跡の廃棄後に掘削された円形の土坑評は、地山VI層の採掘と焼土塊・炭化物を含む土の廃棄を繰り返した土坑と考えられ、カマドの造り替えなど住居跡に付随した遺構と捉えられる。土坑評は7世紀後半の6号土坑まで続き、竪穴住居跡の存続時期と一致している。7世紀末の4号住居跡は主柱穴の検出されないタイプである。東壁のカマド右袖には角四石安山岩の袖石が据えられ、周囲には袖石を取り囲むように完形の土師器杯3点が出土し、うち1点は扁平鎌を入れた状態で伏せられていた。さらに袖石から剥落した角四石安山岩の剥片も周辺に散在しており、カマドの廃棄時に袖石付近において何らかの儀礼行為が行われたことを示している。ところで角四石安山岩のカマド袖石は、近隣では下佐野遺跡I地区B区30c号住居跡・II地区6区7号住居跡にみられるが、4号住居跡より古い6世紀後半から7世紀前半のもので、加工痕はみられない。7世紀末の本遺跡4号住居跡の袖石は敲打・研磨により面取りされ、反りのある形状が鵜尾を思わせる。しかし、これを前橋市山王廃寺出土の石製鵜尾のような大型で精巧な造りものと同列に扱うことは無理があるうえ、7世紀末という早い段階での寺院からの転用も考えにくい。鵜尾のもつ火除けという性格を意識して形状を模倣したことも考えられるが、石製鵜尾の出土例が極めて少ない現状では、鵜尾以外の石製品からの転用の可能性も加味しながら、角四石安山岩の加工石を使用したカマド袖石について丹念に検討していくことで、この石のもつ意味を明らかにしていく必要があろう。

このほかには、断片的ではあるが古墳時代前期の古式土師器（S字壺や吉ヶ谷式系）の出土があり、竪穴住居跡に切られる1号溝がこの時期に属する可能性がある。舟橋遺跡や下佐野遺跡などでみられる鳥川左岸における古墳時代前期からの集落形成が、近接する新後閑遺跡においても存在したことを示している。

一方、奈良時代から平安時代にかけては集落としての痕跡を見出すことができなかった。狭い調査面積の影響もあろうが、遺物もほとんど出土しなかったことから、この時期は集落中心部から外れ、畑地等へと変化したことも考えられる。

### 参考文献

- (公財)群馬県歴史文化財調査事業団は1986「下佐野遺跡II地区」・1988「田端遺跡」・1989「下佐野遺跡I地区・寺前地区」・1989「舟橋遺跡」高崎市政教育委員会2009「新後閑遺跡」・「新後閑遺跡2」

## 抄 録

フリガナ	シンゴカシキセキサン							
書名	新後園遺跡3							
副書名	宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査							
巻次								
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第363集							
編著者名	矢島浩 常深尚							
編集機関	有限会社毛野考古学研究所							
編集機関所在地	〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1							
発行機関	有限会社毛野考古学研究所							
発行年月日	西暦2016年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	所在地	コード		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	道跡番号					
新後園遺跡	群馬県高崎市 新後園町	102020	647	36° 18' 42"	139° 00' 54"	20150803 / 20150831	90.78 m <sup>2</sup>	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
新後園遺跡	集落跡	縄文時代 古墳時代 (前期、後期)  時期不明	竪穴住居跡4軒 掘立住居跡1棟 土坑 7基 ピット 38基 溝 1条 土坑 7基 溝 1条	打製石斧 土師器、須恵器、金環、白玉  土師器、須恵器、土鍾			7世紀を主体とする古墳時代後期の集落跡。 7世紀末の竪穴住居跡のカマド右袖石に角閃石安山岩の加工石を使用。	

# 写真図版



調査区全景 (空撮、北から)



調査区東側全景 (北西から)



調査区西側全景 (左上が北)



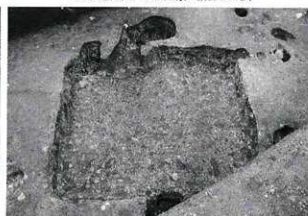
1号住居跡全景 (南西から)



1号住居跡カマド全景 (南西から)



2号住居跡全景 (北西から)

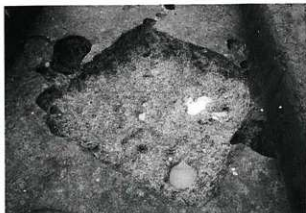


3号住居跡全景 (北東から)





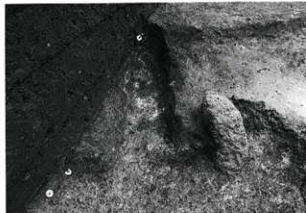
3号住居跡カマド全景 (北東から)



3号住居跡掘り方全景 (南東から)



4号住居跡全景 (南西から)



4号住居跡カマド全景 (南西から)



1号掘立柱建物全景 (南東から)



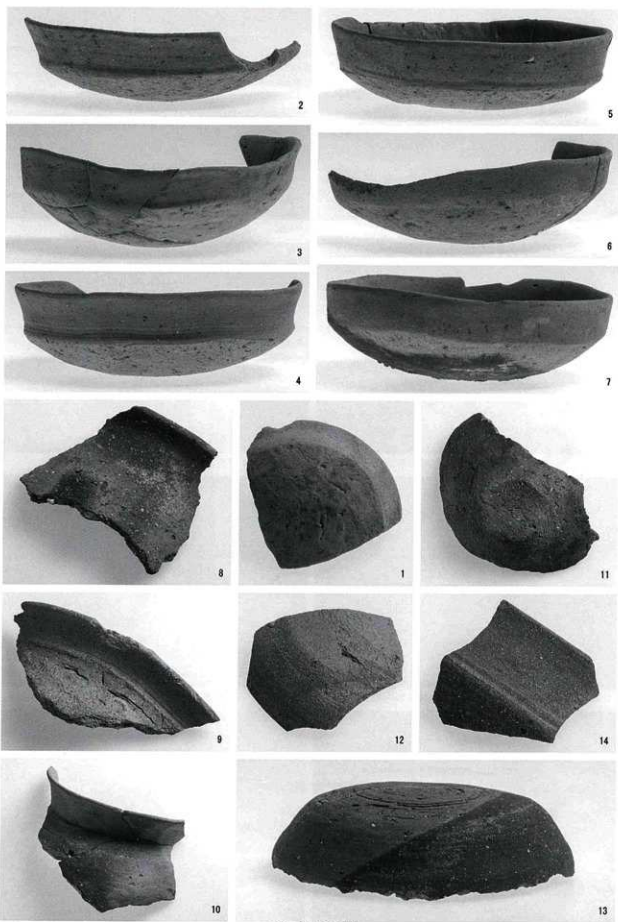
1~3号土坑全景 (南西から)



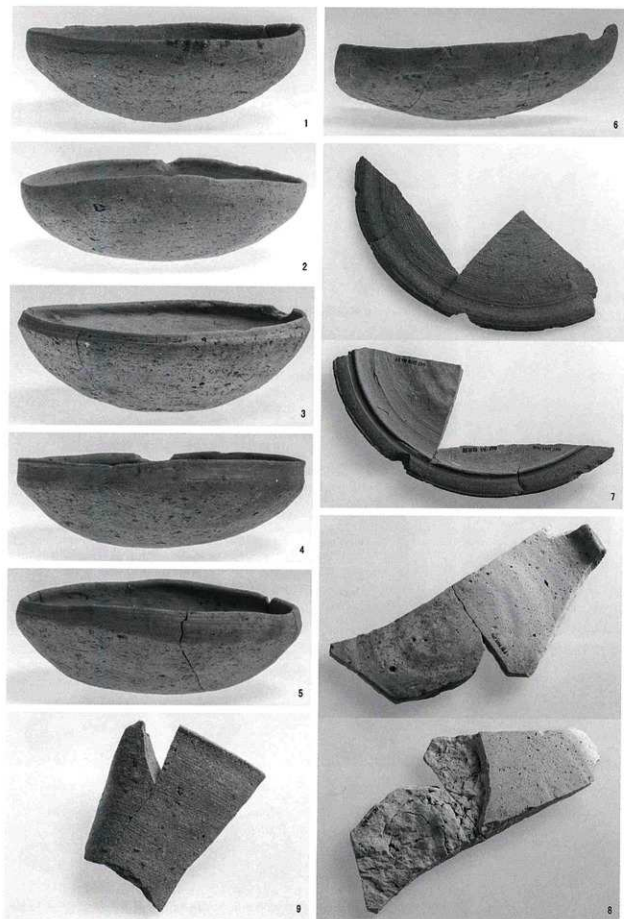
1号溝全景 (北東から)



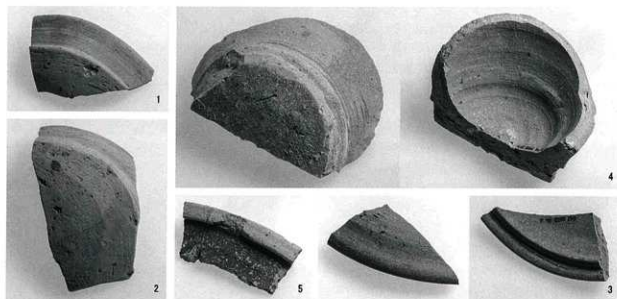
1号ピット遺物出土状況 (南から)



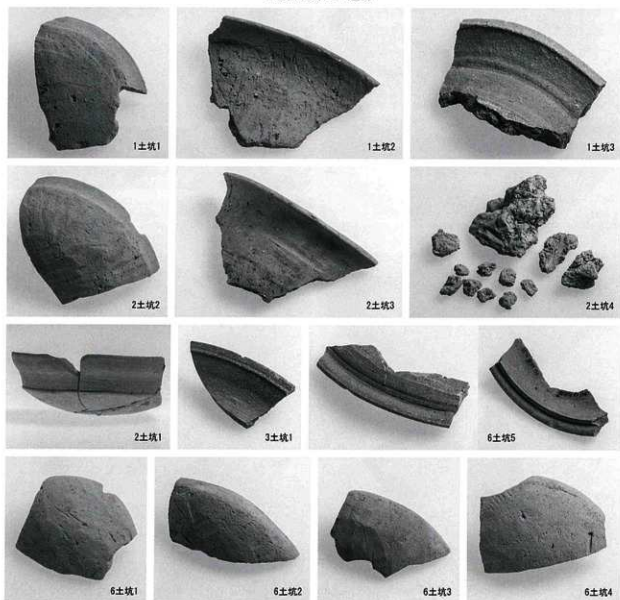
1号住居跡出土遺物



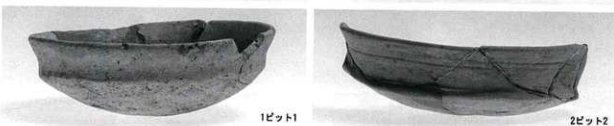
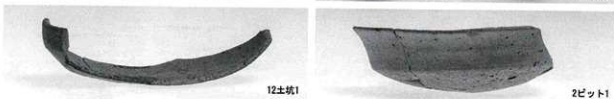
4号住居跡出土遺物



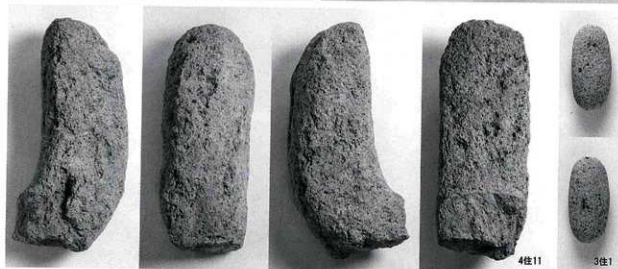
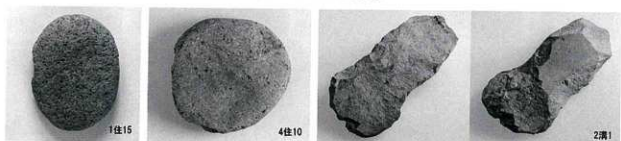
2号住居跡出土遺物



土坑・ピット出土遺物①

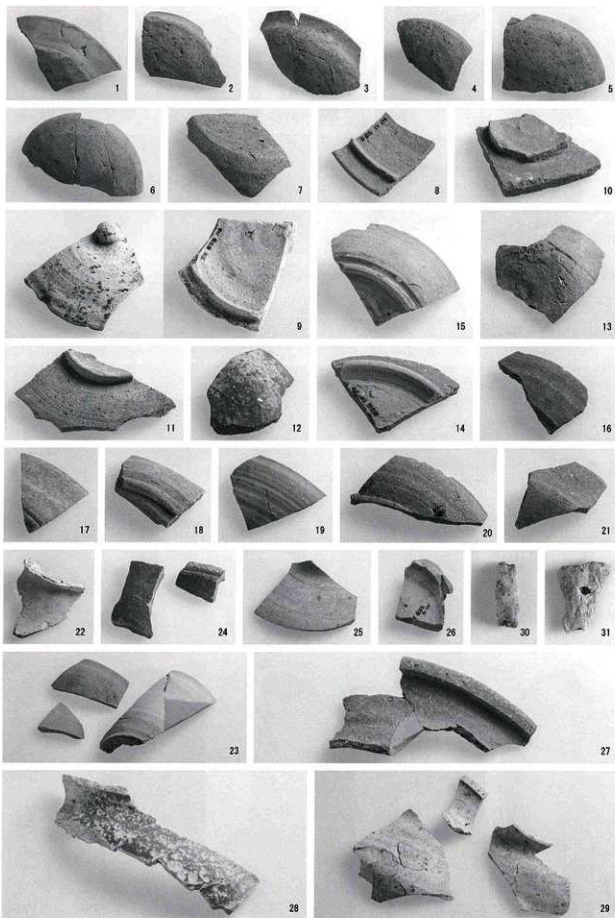


土坑・ピット出土遺物②



石器・石製品





包含層出土遺物

---

---

高崎市文化財調査報告書第363集

## 新後閑遺跡 3

2016年3月30日印刷

2016年3月31日発行

編集／有限会社毛野考古学研究所

〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1 電話 027(265)1804

発行／有限会社毛野考古学研究所

印刷／中村印刷工業株式会社

〒930-0030 富山県富山市京町2丁目3-22 電話 076-424-4616

---

---